

平成27年度第1回福岡市美術館協議会 会議録

日 時	平成27年8月20日(木) 14:00~16:00
場 所	福岡市美術館 教養講座室
出席者	協議会委員：後藤会長外 計11名 福岡市美術館：錦織館長外 計8名 福岡アジア美術館：森館長外 計7名
議題	(1)福岡市美術館平成26年度事業報告について (2)福岡アジア美術館平成26年度事業報告について (3)その他

1 開会

2 館長挨拶(内容省略)

錦織福岡市美術館館長挨拶

3 議題

(1) 福岡市美術館平成26年度事業報告について

事務局より報告

(2) 福岡アジア美術館平成26年度事業報告について

事務局より報告

(3) その他

事務局より報告(喜多川歌麿新発見「花魁と禿囚」について)

会長： 充実した報告だった。前回指摘したが、資料の各展覧会名の横に担当学芸員の名前を入れていただけで、非常にわかりやすくなった。では、質問等ある方どうぞ。

委員： 昨年度のアジア美術館のトリエンナーレで、中学校の先生方の研修をさせていただいたが、感動した、非常によかったという声があった。このような活躍をされているアジアの作家が芸術活動を繰り広げているが、もっとテレビ番組やタレントを呼んだりしてPRすれば、無関心の方々にももっとこの展覧会は注目されると思う。また、ワークショップの問い合わせやお願いの電話があるが、学校が4月の学校教育計画で年間の事業が決まってしまうので、4月当初にそういった提案や宣伝をしていただきたい。最後に、小学校中学校には明治大正昭和初期くらいまでの有名な郷土作家の寄贈品が多数あるが、埋もれてしまっているので、それらを集めて展覧会を企画してほしい。地元の子どもたちも、自身の地域にそのような作家がいることを知り、自信につながると思う。

会長： トリエンナーレの広報関係と、ワークショップに対する意見について、まずはアジア美術館の方

から。

事務局： 25年度のトリエンナーレよりも、テレビや新聞、雑誌、インターネット等でのメディア露出は多かったが、それにもかかわらず、入場者は下回った。アンケートの結果によると、新聞を見てこの企画展に来た人の割合が非常に少なかった。今までのメディアの使い方だと、来るべき人が来ない。また、若い人たちの展覧会離れなどもあるので、広報についてもっと戦略的にやるべきだった。

事務局： ワークショップの広報については、今回は若い層をターゲットにし、広報の予算はほとんどかけておらず、ほとんどがタイアップで行ったが、現状広報が後手に回っている。これからは広報の仕方を変えていきたい。

会長： この問題はアジア美術館だけでなく福岡市美術館にも共通していると思う。先ほどの質問の三点目について、学校が持っている郷土作家のコレクションについて、組織的に小中学校、高校、大学のコレクションをリストとして持っているのか。

事務局： 各学校の壁に名画が眠っているのではないかと感じてはいるが、調査が及んでいない。今後は先生方と連携して調査を進めたい。来年休館をするので、調査も含めて、お役にたてる方法を現在模索中である。

会長： トリエンナーレについては、丁寧な案内が届き、また、ボランティアさんの対応も丁寧で、好印象だった。小・中・高全てで事前の団体受付ができるかはわからないが、かなり努力していると思う。また、広報については、テレビや新聞、ラジオだけではなかなか集客できない時代になっている。展覧会一つ一つは非常に質が高い。ただ入館者数は少ない。このジレンマを今後、広報を含め、どうしていくのがこれからの課題だと思う。

委員： 釜山のビエンナーレに比べて、トリエンナーレは予算が少なすぎる。また、アジア美術館は展示室が狭いので素人が見たらごちゃごちゃして見える。観光で利益を出している分、文化の方にもっと配分できるよう頑張ってもらいたい。また、特に予算の少ない時期は、地域の文化団体に呼びかけをして協力してやってみてはどうか。

事務局： 釜山ビエンナーレとトリエンナーレは協定を結んでおり、半券で互いに無料で見ることができる。26年度は釜山から28名来た。26年度のトリエンナーレは歴代史上最も予算が少なかった。スペースの問題については、外への展開はコストがかかるため、前回は少ししかできなかったが、次回のために現在館外のスペースを見つける作業をしており、市民の方により親しんでいただき、また、観光客にも福岡に滞在して町を楽しんでもらいたい。文化団体との協力については、今回段取りを詰めきらなかった。ただ、26年度は、文化振興課に様々な展覧会をまとめてPRするという企画を作ってもらった。

事務局： 福岡市は全国の都市の中でも非常に早くアジア政策を進めたが、アジアの時代の方が早く進んだ。今、文化政策の方でも東京オリンピックに合わせて文化プログラムを国の方でも考えているよう

なので、それをうまく活用し文化と街の関係を見直し、結び直すところは結び直していこうと考えている。その中で、アジア美術館がトリエンナーレをやるように単体で動いていたものを、文化を使って文化と街の関係をもう一度考え直して文化政策を整理し直そうと検討している。予算がどうなるかはわからないが、様々な政策を融合して文化のまちづくりをしていくことを考えている。学校教育や福祉の部門と連携しながら、文化政策を見直そうとしているので、今からいろいろと検討していく。

会長： 予算に関しては、トップの意向が非常に反映し、文化のための予算を別枠でとることは非常に難しい。今回お話を聞いて、両館とも最大の努力をしている姿には敬意を表したい。これに相応の観覧者数が付けば、それに越したことはない。両館とも開館以来ノウハウを蓄積していると思うので、観覧者数に関わらずこの努力を継続していただきたい。

委員： 学校はお金と時間がないため、なかなか子どもに本物の作品を見せてあげられない。ぜひ、出前講座のような福岡市オリジナルの企画を期待している。

事務局： 福岡市美術館は来年から約2年半休館するため、美術作品を持っていけなくても、美術に親しむ下地ができるような様々な仕掛けを持って各学校に伺いたい。また、そこで各学校にある作品を活用して教育普及活動をすることを検討したい。休館中だけでなく開館後もアウトリーチ活動を拡張したいと考えている。

会長： 休館中のプロジェクトの予定を教えてください。

事務局： 休館中は美術作品を九州国立博物館や九州歴史資料館や民間に預かってもらう。また、一部の作品について、アジア美術館ではアジア関係の作品を常設で展示をすることを検討していただいております。福岡市博物館では、黒田家の資料を預かってもらい、博物館の資料と合わせて展示することを検討していただいている。また、ミロやダリ等の作品は巡回してほしいとの声をいただいております。同じく休館中の北九州市立美術館の作品と合わせて九州を巡回する予定である。この他、美術館連絡協議会の協力を得て、所蔵作品を全国に巡回していきたい。

会長： 福岡市博物館とアジア美術館が福岡市美術館関係の企画展等をして、休館中も作品を見られるのは非常にありがたい。アウトリーチ活動についても、ぜひ人気の作品をまわしていただきたい。

委員： 事業報告で評価指数が来館者数のみである。課題がプロモーションであるならば、広報活動での広報費換算や満足度、消費額等の指標も大事だと思う。報告では、成田亨展でのチラシの工夫やスタッフでの交流で無料にしたこと、三館連携等の説明はしていたが、そういったところをもっと強調していった方が良いと思う。また、従来とはプロモーションのやり方は変わってきていると思う。例えば、長崎県のテーマパークなどは外部の企業とのコラボレーションをしたり、観光のプロの会社がそれを手掛けたりして、大きく再生した。大手広告代理店等も、若者のスキー場やゴルフ場離れということで、例えば19歳の人はリフトを無料にし、20歳の人はゴルフ場を無料にするなど、そのようなキャンペーンを全国的に展開している例もある。また、ある旅行会社は、

若者の競馬場離れという課題があるため、リレーマラソンを小倉競馬場辺りで開催した。課題は共通点があると思う。質を悪くするのではなく、やり方や見せ方を変えていき、活気や集客力のある若者を引きつけるような工夫を考えてみてはどうか。

会長： 専門の立場からのご意見だったが、これに対して美術館の方からご意見などをどうぞ。

事務局： 私達も現在、展覧会についてのアンケートをとってはいるものの、広報については暗中模索の状態なので、今後はどのような方法でうまくいった、あるいはうまくいかなかったなどの報告をしていきたいので、その時はアドバイスをいただきたい。

会長： アンケート結果等を専門的な知見を含めてもう少し分析すればより効果的になると思う。

事務局： 先程のご意見について、三館では館の中だけで考えるのではなく、館の外側と連携して考えるという形で整理していきたい。福岡市博物館では少し進んでおり、交通産業や旅行会社、広告代理店と検討を始めて、昨年放送されていた黒田官兵衛と連動して展示を工夫した。中は考えているので、外と連携して考えていくシステムを三館で考えていきたい。

会長： この協議会の趣旨は第三者に意見を聞くというものだが、福岡市美術館とアジア美術館がお互い同士で批判し合うというピアレビューの場でもある非常に貴重な機会であるので、ぜひ活用していただきたい。

事務局： どのように宣伝したらいいのかという面も含めて、興業師的な才能を持った人のアドバイスがほしい。展覧会について、中だけで考えたら人は来るだろうと思っても、外の意見を聞くとそうでもないという問題に以前からジレンマを持っている。福岡市の一部の施設では、プロの方がアドバイスをして、一定の効果を生んでいるという話を聞いた。私達も相談しやすい形で、興業的な面での様々なアドバイスがほしいという気持ちは持っている。展覧会が興業になっているという現実を考えていかなければならないと思う。

事務局： 展覧会は見せ物なので人がこないという意味がない。アジア美術館では広く浅くするのは難しいので、ターゲットを絞ってやる必要があると思う。また、美術館の基本はコレクション展なので、特別企画展をしていなくても、常に人が来てくれることが必要だと思う。アジア美術館は福岡市美術館と比べて対象が限定された美術館なので、来てもらいたい人を絞って広報してみてもいいと思う。外国人観光客がどれくらい来ているのか明日からアンケートを始めるので、実情把握をして、それに対して戦略的なことができればご相談あるいはご報告をしたい。

委員： 各館で専門家を雇う必要はないと思う。マネジメントは美術館では本来必要ない。学芸員には学芸員の仕事をやってもらい、一緒に会議を開く制度を作った方がよい。

事務局： 課題として認識しているので、再度検討していく。

会長： 予算を伴わなくとも私達のアイディアでできることがあると確信した。以上で、事業報告に関する質問は終了とし、総合的にご意見等ある方はどうぞ。

委員： この協議会で出た様々な問題に対して、委員一人一人が自身と関連する問題と位置づけてもらい、

美術館を盛り上げるために活動をするような流れになればよいと思う。

会長： 事前にご相談があれば、色々な意味で私の大学の学生が積極的に参加してくれると思う。この協議会が意見を言うだけでなく、ここから実践的に発展していくような会になればと思う。

委員： 「更紗の時代」展はよかった。常設展も展示のし方を変えておもしろくなっている。学芸の担当の方は自信を持ってほしい。

会長： 委員の方々にはさらにご自分の職場でも力を発揮してほしい。

4 館長挨拶（内容省略）

森福岡アジア美術館館長挨拶

5 閉会